

国語

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
国語	現代の国語	2	1年次・全	必修
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
高等学校 現代の国語 （第一学習社）		カラー版 新国語便覧 テスト式国語常識の総演習		1年次必修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。さらに、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
実生活に必要な国語の知識や技能を身に付けていく。さらに、それらに関連付けて活用できるようになることを目指す。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばしていく。他の人の意見をよく聞き、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになることを目指す。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させるべく自覚を持ちつつ、言葉を通じて他者や社会と関わろうとする姿勢を培う。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）	月	学習のねらい	評価の観点	
学 習 の 年 間 計 画	1 学 期	理解編 1 「生きものとして生きる」 「羅生門」	4	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し、自分の人生に照らし合わせて考えを深める。 日本を代表する近代文学作品を表現に注目しつつ読んでその作品世界をつかみ、そこに込められた作者のメッセージを理解する。 登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 評論の読解方法を習得する。 西洋文化と対比された日本文化の特徴について理解を深める。 話し言葉と書き言葉の特徴を理解し、相手に伝わりやすい表現を考える。 	1 2 3	
			5		2 3	
		2 学 期	理解編 2 「水の東西」 表現編 「話して伝える」		6	1 2
					7	1 3
	2 学 期	理解編 2 「砂に埋もれたル・コルビュジエ」 理解編 3 「無彩の色」 理解編 4 「フェアな競争」 表現編 「書いて伝える」	9	<ul style="list-style-type: none"> 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 短編小説のおもしろさを味わう。 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉え、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 題名に込められた意味を考えながら読んでいく。 筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係を押さえる。話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わい、古文に親しむ。 表記・表現の基本ルールを理解し、情報を的確に相手に伝える方法を体得する。 	1 2	
			10		2 3	
			11		1 2	
			12		1 3	

令和5年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

3 学 期	5	理解編4 「鏡」	1	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を代表する現代作家の本を読み味わう。 ・小説の読解方法を習得し、登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 ・日本を代表する近代作家の代表的な作品を味わう。 ・小動物の死と関連して主人公の心境が語られる構成を読み取り、その死生観について考えを深める。 ・改正前後の法律文を読み比べて、必要な情報を読み取っていく。 	1 2
	6	理解編5 「城の崎にて」	2		2 3
		理解編6 「法律の改正の文章を読み比べる」	3		1 2 3
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能		2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査等では、事実的な知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題とのバランスを取りながら評価する。 ○課題や提出物の状況を評価に取り入れる。 ○実生活に必要な国語の知識や技能を身に付けることを期し、技能もはかる多様な評価を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査等では、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が身に付いているかをはかることに注力する。 ○論述やレポート等、多彩な表現活動を評価に取り入れ、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができているかをはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別学習状況の評価を通してはかる。 ○ノートやレポート、提出物等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒の自己評価等の状況も評価に当たって考慮する内容とする。
	手 段	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト ・提出物 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業中の活動 ・感想文など 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動 ・感想文など ・提出物
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に単元末と学期末の評価を行い評価する。		
学習上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの勉強や課題プリントなど、家庭学習をしっかりと授業に臨むこと。 ・ノートや問題集など、提出物は期限を必ず守ること。 				